

ほっと通信



いよいよ3学期がスタートしました。それぞれの学校において、子どもたちが自信をもって次学年のスタートがきれるよう、1年間のまとめに力を入れていることと思います。一方、今学期を歩むにつれ、学習面や生活面において、気がかりなこともあるのではないのでしょうか。

巡回相談チームも、今年度は職員の退職に伴う人事異動もありましたが、予想以上の巡回の依頼があり、何とか皆さんのお役に立てるよう一同張り切っているところです。

今後とも引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

今年度の巡回相談チームのスタッフです！

今年度の教育支援課 相談担当 巡回相談チームのスタッフは以下の通りです。

○主査（市職員）	菅原 慎逸
○主任（市職員）	山岸 輝昭
○心理相談員（市嘱託員）	市川 真帆 ・ 齊藤 愛香 島崎 絢子 ・ 藤井 貴絵
○特別支援専門相談員（作業療法士／市嘱託員）	大月 逸平
（言語聴覚士／市嘱託員）	木原 ひとみ

平成30年度の巡回相談チームは、心理士と特別支援専門相談員、心理士と心理士がペアになって、市内の小中学校に伺っています。学校からの多様な支援のニーズに応えていこうとするものです。

子どもたちが困っていることの原因は、多岐にわたります。それだけに多様な視点から考えていくことは、支援の手立てに近づくための大きな力となります。巡回相談チームでは、心理、運動・感覚、言語のそれぞれの専門性を生かして、少しでも個々の課題に応じた支援ができるよう先生方と一緒に考えていこうと思います。是非とも有効にご活用ください。

今日からできる！ 教室での有効な支援方法



今回は相談ニーズが多い、「感情表現の調節」と「注目のさせかた」についての支援方法をご紹介します。支援が必要な子だけでなく、すべての子に使えます！

感情表現の調節

“相手”を意識する「感情表現」は、言葉にとどまらず、自己の行動を調節する重要な役割も果たしています。学級活動でも広く取り上げられている「あったか言葉」、「チクチク言葉」からスタートしてみませんか。



伝えたくない チクチク言葉

- * のろま
- * どけ
- * しね
- * だまれ
- * こんなのもできないの？
- など

たくさん伝えたい あったか言葉

- * おはよう
- * さようなら
- * ありがとう
- * すごい
- * ラッキー
- * うれしい
- * てつだってあげようか？ など

※「あったか言葉」、「チクチク言葉」はクラスだけでなく家庭と共有することもおすすめです。

手順 ①
一人ひとりが「あったか言葉」、「チクチク言葉」を考え発表。

【効果】感情を言葉にして、表現する力を育む。

手順 ②
皆で「あったか言葉」、「チクチク言葉」を共有する。

【効果】2つの言葉を区別し、相手に言われたら嫌な言葉を意識する(気づく)。

手順 ③
掲示するだけでなく、定期的に更新して意識を継続させる。

【効果】同じ言葉であっても、繰り返し認識することで望ましい、望ましくない言葉をより意識する。

元気にする「あったか言葉」、悲しくなる「チクチク言葉」を意識し言語化することは、「感情表現の調節方法」を学ぶ一歩につながります。これは、日常生活を送る中で、何気なく使っている言葉や行動

ミニコラム

ADHDの第3の薬

注意欠陥・多動性障害(AD・HD)の投薬としてストラテラ、コンサータに続き、インチュニブが国内3番目の治療薬として注目されています。インチュニブは、ストラテラと同程度の有効性が示されています。

服薬開始後1~2週ほどで効果が現れるとされています。もともとは高血圧の薬なので、低血圧や徐脈に注意が必要ですが依存の心配はありません。

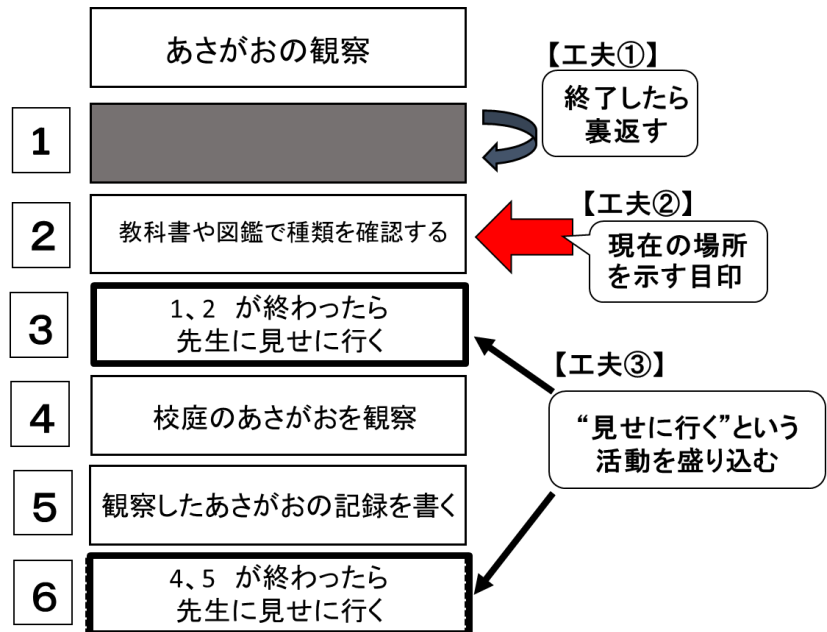
を振り返りながら、自分の心に意識を向け、相手の心を想像しつつ、適切な言葉を選択し、コミュニケーションを調節する力につながります。また、「あったか言葉」、「チクチク言葉」は、相手に言われたら嫌な言葉、うれしい言葉だけでなく相手や自分自身を意識する力を養う側面も持ち合わせています。



注目のさせかた

注目するのが苦手な子どもたちの課題として、他の物や音に注意が逸れやすい、複数の指示を覚えていられない、集中力が続かないことがよく挙げられます。

言葉だけの指示よりも、視覚的な支援によって学習指導の手順や流れを全体に掲示することで、授業の進行状況の中で今取り組む課題が把握しやすくなり、次の作業にスムーズに移行できる手がかりとなります。



*手順がたくさんあると混乱する子どもの場合：【工夫①】終了した指示は裏返しておく。【工夫②】目印をつけて、現在取り組む課題を把握できるようにする。【工夫③】注意を持続させるために、課題の途中で“見せに行く”行動を取り入れると、活動にメリハリもつき効果的です。

*掲示物での手順を理解することが難しい子どもの場合：手順が書かれた指示カードを机の上に置くなど手元にあると注意しながら確認することができます。

*課題の内容によっては、子どもたちが課題の手順を考えるのも有効です。子どもたちが主体的に課題を作成することで、課題の内容を事前に把握し、見通しを持つことで、より課題への注目を促す効果を得ることができます。

『八王子市特別支援教育ハンドブック』
支援のアイデアがたくさんあります。(29年度版)

この冊子は八王子市の取り組み、特別支援について考えを深めるアイデアがたくさん詰まっています。校内資源を活用していただく過程で、参考にさせていただけたらと思います。(主な内容：目次より)

- 特別支援教育で使われる用語や仕組みについて
- はちおうじっ子マイファイル
- 中学卒業後の進路について
- 通常学級での特別支援のヒント
- 市内外の相談機関の紹介

ハンドブックの内容は八王子市のホームページでもご覧いただけます。冊子もお配りしていますので、必要な方はご連絡ください。
(学校教育部 教育支援課：TEL 620 - 7446)

巡回相談チームのスタッフの紹介



① 氏名：② 役職：③ 好きなもの：④ 好きな言葉：⑤ 先生方へのメッセージ：

- ① 市川 真帆
- ② 心理相談員
- ③ お肉料理、休息、登山（初心者）
- ④ 安心感
- ⑤ 子どもの行動の背景にあるものを、皆さんと一緒に考えていきたいです。

- ① 齊藤 愛香
- ② 心理相談員
- ③ 食べること、運動すること
- ④ 一期一会
- ⑤ 子ども達の成長を第一に、先生方と一緒に考えていけたらと思います。

- ① 島崎 絢子
- ② 心理相談員
- ③ くだもの、お散歩
- ④ 笑顔、リラックス
- ⑤ 先生方と一緒に家庭や学校で出来る工夫を考えていけたらと思います。

- ① 藤井 貴絵
- ② 心理相談員
- ③ 焼肉食べ放題、温泉
- ④ 七転八起
- ⑤ 子ども達にとって何が必要なのかを一緒に考えていければと思います。

- ① 大月 逸平
- ② 作業療法士
- ③ 楽
- ④ 「無」
- ⑤ よろしくお願いします。

- ① 木原 ひとみ
- ② 言語聴覚士
- ③ ガーデニング、美術館巡り
- ④ 最後まで諦めない
- ⑤ 困り感を共有し、方向性を模索するお手伝いができればと思います。



巡回相談では、特別な支援が必要と思われるお子さんについて、授業観察や聞き取りを通して特性を見立て、先生方と支援の方向を考えていきます。障害の判定や就学・進学先を決めるためのものではありません。児童・生徒の支援に関してはさまざまな手段・資源がありますが、その一つとしてご活用ください。お申し込みは管理職または特別支援教育コーディネーターから電話でお願いします。

TEL 664-1615 または PHS [Kキョウイクセンタートクベツシエン1・2]